



# Karibu Kenya!

☆JICA 海外協力隊 ケニア通信 No.4☆

2026年8月29日

発行者: 夏目佳代子

Habari gani? (ハバリ ガニ?) お元気ですか? ケニアに来てからの現地研修は JICA ケニア事務所で行われています。事務所に入ると、セキュリティのスーズンさんとウォルターさんが「Karibu! カリブ〜!」と迎えてくれます。スワヒリ語で「ようこそ!」という意味です。「どういたしまして。」も「カリブ」です。語尾を伸ばして「カリブ〜!」と言うことが多く、会話の中でもよく使われています。これまでケニア通信のタイトルにしていた「Habari ya 〜」は、疑問文で使われることが多いようなので、今回からタイトルを「Karibu Kenya! ケニアへようこそ!」としたいと思います。



☆スーズンさん(左)と  
ウォルターさん(右)

## ☆任地のキリギティへ

8月18〜21日まで、任地のキアンブ郡キリギティヘフィールドトリップに行ってきました。一人で任地に行き、配属先の訪問、候補のアパートの内見、生活環境の確認などをします。キリギティへはマタツと呼ばれるミニバスに乗っていきます。キリギティ女子更生学校のスタッフであるブレンダさんとの待ち合わせ場所は「キリギティショッピングセンター」。無事に会えるか、はじめてのおつかいのような気分です。まずはウーバーでマタツ乗り場へ。日本のようにバスターミナルから各地へ出発するのではなく、行き先ごとに、それぞれ異なる道沿いにマタツがたくさん並んでいます。この一帯は人も交通量も多いので、足早に向かいます。キリギティ行きは「トリプルS」という会社のマタツ。それぞれ車掌さんが乗っていて、乗る前に運賃を支払います。行き先を確認すると、「今キリギティ行きはないから、これに乗ってトゥクトゥクに乗り換えて!」と案内されました。私が最後の乗客だったようで、乗るとすぐに出発。マタツに時刻表はなく、乗客がいっぱいになったら発車するのです。車内は、天井、壁、そして座席もアニメのキャラクターが描かれていました。ドアは開いたままで、車掌さんがステップに立って乗客を乗せたり降ろしたりします。30分くらい乗ったところで突然「ここで降りるんだよ。」と言われて降りると、「この人が案内するから。」と言われ、バスは行ってしまいました。てっきり係員の人がトゥクトゥク乗り場を案内してくれると思ったら、坂道をどんどん歩いていきます。「トゥクトゥク乗り場は?」と聞くと、「このまま歩いて行くよ。」と。どうやら案内してくれているのはマタツの係員ではなく乗客で、行く方向が同じなので一緒に歩いてくれたのでした。なかなかショッピングセンターらしき建物は見えてきません。小雨が降っていて、足元もぬかるんでいて、不安な気持ちが増していきます。坂道を登り切って、「ここだよ。」と着いたのはショッピングセンターというよりは、露店がたくさん並んだ交差点。イメージしていたショッピングセンターとは違いすぎました! 待ち合わせをしたものの、どこからどこまでがショッピングセンターなのか・・・連絡をして待っている時間がとても長く感じました。しばらくして、電話がかかって



☆私が乗ったのはこんなマタツ  
(Triple S の facebook より)



☆本当に着くのかな・・・



☆店の前で(写真左)、行き交う車を見ながら(写真右)ブレンダさんを待つ

きました。「どこにいる?」と。どこにいますと言われても・・・店の看板の名前を伝え、少しして「道を渡って!」と電話がかかってきました。誰もいないけど??と思ってきょろきょろしていると、車が止まり、中から手を振ってくれたのがブレンダさんでした。無事に会えてほっとしました。

## ☆キリギティ女子更生学校へ

ブレンダさんの車が更生学校に到着し、車を降りると子どもたちが待っていてくれました。そして、一人の女の子がオフィスに連れて行ってくれました。「カリブ、キリギティ！（キリギティへようこそ！）」と迎えてくれたのは、スタッフのペシュさん。ソーシャルワーカーとして働いています。別の子が、大きなポットとマグカップを持ってきてくれ、ペシュさんが、「まずはチャイを飲んで。」と言ってミルクティーをマグカップに並々とついでくれました。チャイは、スワヒリ語で「紅茶、お茶」のことです。チャイを飲みながらいろいろ話し、学校の施設を見たいと伝え、「まだ雨が降ってるから後だね。ケニアはポレポレだよ。」と2杯目のチャイをついでくれました。雨が止んでから、施設を案内してもらいました。ちょうど昼食の時間で子どもたちが食堂に集まっていたので、自己紹介をさせてもらい



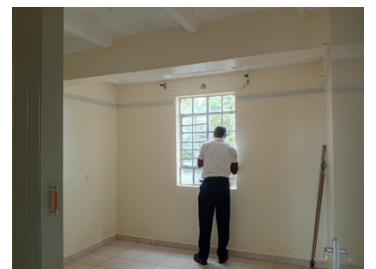
☆カップにたっぷりのチャイ



ました。まだまだつたないスワヒリ語ですが、みんな耳を傾けて聞いてくれました。そして、お昼ごはんのお米と豆を煮たものを一緒にいただきました。その後は、何人か私の周りに集まって、いろいろと話しかけてきます。「髪の毛やわらかい！なんで短く切っちゃったの？」と髪の毛を触ったり、「肌が白い！」と私の手に自分の手を並べたり。人懐っこい子が多く、笑顔がかわいいです。英語を話せる子は多くなく、私のスワヒリ語ではなかなか伝わりきりません。スワヒリ語でもっと話ができるようになりたいと思いました。この週は学期間の休み中で、授業などは行われていませんでしたが、これから、彼女たちの将来につながっていくような活動をしていきたいです。

## ☆ケニアでアパート契約

協力隊の住居形態は、国や地域によって、一人暮らし、ホームステイなど様々です。ケニアでは、隊員がそれぞれアパートを契約します。私が住むキリギティは首都のナイロビに近く、ベッドタウンでもあるので、アパートがたくさん建っていました。フィールドトリップの2日目は、まずボランティア調整員の方が候補として挙げてくださったアパートの内見に行きました。ドアを開けてすぐにリビングルームがあり、奥にキッチンや寝室があるのが典型的な間取りのようです。また、町を散策して生活環境を確認しながら、他のアパートもいくつか中を見せてもらいましたが、空き部屋がなかったり、内見した後に詳細を確認したら「その部屋は昨日入居者が決まっちゃったよ。」と言われたりでした。ケニア全体では、人口に対して住居が足りていないという現状があり、空きがあってもすぐに埋まってしまうようです。フィールドトリップの最終日、JICAの安全対策スタッフのギルバートさんと調整員の方に、最初の候補のアパートのセキュリティを確認してもらいました。安全に住むことができるように、アパートがしっかりとした塀で囲ま



☆窓の鍵のチェック



☆大家さん一家

れているか、窓に鉄格子があるか、カギに問題はないかなど、念入りにチェックします。そして、寝室となる部屋のドアの手前に、グリルドア（格子付き防犯ドア）をつけてもらうように大家さんに依頼しました。最後に契約書をよく確認してサイン。ここまで不安でしたが、無事に住む場所が決まってほっとしました。大家さんは、様々な野菜を育てているそうで、「ケニア料理の作り方を教えてあげるからね。」と言ってくださり、楽しみです。



☆道で声をかけてくれた親子

更生学校の子どもたちやスタッフに会え、キリギティの町の様子も分かり、いよいよ活動が始まるんだという実感がわいてきました。

それではまた！ Tutaonana（トゥタオナナ！）